

(様式1)

校 種	① ・ 中 どちらかに○	学校番号	5 8	学校名	宇都宮市立西が岡小学校
-----	-----------------	------	-----	-----	-------------

令和5年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

人間尊重の教育を基盤に自ら学び、自ら考え、主体的に判断して生きていくことのできる、心身ともに健康で、心豊かな、たくましい児童を育成する。

(2) 具体目標

<目指す児童像>

- ① 明るく元気な子ども（体力・気力）
- ② よく考えて学習する子ども（創造力）
- ③ 心豊かで思いやりのある子ども（責任・思いやり）

<目指す学校像>

- ① 楽しく充実した居がい感のある学校
- ② 子どもと教師が共に育つ学校
- ③ 地域とともに歩む笑顔あふれる学校

合言葉 元気いっぱい 夢いっぱい 笑顔あふれる 西が岡

2 学校経営の理念

教育目標の達成を目指し、子どもの自主性を育て、希望に満ちた明るく、楽しい学校づくりをするために、全職員が和と協力、熱意、そして人間尊重の精神を基盤に『生きる力』を育む教育に取り組む、新しい時代の教育に向けた持続可能な活力に満ちた特色ある学校経営を推進する。

3 学校経営の方針

(1) 自己肯定感を育む学級経営

一人一人のもつよさや特性を認め、自信と意欲を育む居がいのある学校・学級づくり、自主性を育てる教育活動の展開に努める。

(2) 確かな学力の向上

学ぶことの意義を明確にするとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、学ぶことの楽しさや成就感を体感させ、自ら学ぶ態度の育成と基礎・基本の確実な定着に努める。

(3) 豊かな心の育成

道徳教育や学級経営の充実を図り、「生命や人権を大切にする心」「思いやりの心」を育み、心豊かでたくましい子どもの育成に努める。

(4) 児童指導の充実

全教職員の共通理解のもと、児童理解及び保護者との情報共有に努めることで、児童・保護者との信頼関係を深め、規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める。

(5) 体力の向上と保健安全教育・食育の充実

進んで運動に親しむ体育指導と、健やかな体を育む食育・保健指導の充実を図り、健康・体力の向上に努める。

(6) 小中一貫教育の推進

学校園として認め励ます指導を通して自尊感情を育み、学習や活動の交流を図り、小中一貫教育を推進する。

(7) 特別支援教育の充実

多様性と人権を尊重し、特別支援教育の視点を大切にした教育環境の醸成に努める。

(8) 教職員の資質の向上

常に自己の資質向上に努めるとともに、コンプライアンス及びアカウンタビリティを意識し、子どもや保護者から信頼される教職員集団を目指す。

(9) 地域とともにある学校づくり

家庭や地域との連携と情報発信の充実に努め、地域とともにある学校づくりの推進に努める。

(10) 教職員の働き方改革の推進

教育の重点化，ＩＣＴの活用，協働体制の確立，報・連・相体制の徹底，保護者や地域の教育資源の有効活用，出退勤時刻の管理等により教育の効率化を図り，教職員の働き方改革を推進する。

「宝木地域学校園教育ビジョン」

「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を目ざして

- 豊かな心の育成 ・規範意識の育成
- ・生命を尊重し相手を思いやる態度の育成
- ・自然，文化，芸術に親しむ感性の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法，同施行規則，新小学校学習指導要領等の法令並びに栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」，宇都宮市教育委員会の学校教育の重点「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」「令和5年度指導の重点」の示すところに従い公教育の立場を堅持し，本校の教育目標達成のため，調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 児童の実態や学校の特色や地域のもつ豊かな教育力を生かして，知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指した教育課程の編成に努める。
- (3) 本年度の学校教育目標，学校経営方針，努力点や具体策，学校課題の具現化を図るとともに，学校教育の活性化を図る特色ある教育課程の編成をする。

5 今年度の重点目標 （「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

落ち着いた学校生活のもと，縦割り班活動を中心とした体験活動や道徳教育，読書活動などを通して豊かな心と自主性を育み，特別支援教育の視点を取り入れた分かる授業の充実に努め，学ぶことの楽しさを実感する教育の推進に努める。

明確なビジョンをもった教育課程の編成・実施による教育活動を推進し，新しい時代へ向けた持続可能な教育体制を目指すとともに，働き方改革を積極的に推進する。

(2) 学習指導

- 児童の実態や特性を踏まえ，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り，分かる授業（西が岡スタイル）を展開しする。学習意欲の向上に努めるとともに，家庭学習の習慣化を図り，確かな学力の定着に努める。

(3) 児童生徒指導

- 道徳教育や学級経営の充実に努め，具体的な活動を通して「明るくあいさつ」「正しい言葉遣い」「決まりを守る態度」の育成に努める。

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

体育，保健，食育指導の連携をもとに，自己の生活習慣（保健安全・食習慣・体力）を意識できる児童の育成に努める。

6 学習指導，児童生徒指導，健康（保健安全・食育）・体力に関する取組 ※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくりに関する取組

(1) 育てたい資質や能力

- ① 縦割り班を生かした活動をととして，児童の自主性・協調性・社会性を養うと共に，高学年においてはリーダーとしての資質を育成する。
- ② 地域の人々や各種ボランティアとのふれあいをととして，地域への敬愛の心を培うとともに，より幅の広い社会性を養う。
- ③ 図書室の利用を活性化し，児童が進んで読書したり，自ら課題を解決したりしようとする姿勢

を育てる。

(2) 具体的な取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」関連には、文頭に◇）

① 教育課程への位置づけと活動計画の作成・実施

ア 異学年集団による交流活動

- ・児童会活動 集会活動（新入生を迎える会，6年生を送る会，卒業生歓送の集い）
常時活動 あいさつ運動

◇・縦割り班活動 遊友タイム，花はなタイム，清掃，元気っ子体力チェック

◇・他学年交流の実施

元気っ子体力チェックのペア学年（1・3・6年 2・4・5年の縦割り）
生活科・総合的な学習の時間の交流（なかよしまつり1・2年，総合的な学習の発表2・3年）国語科の交流 集団登下校

イ 地域人材を活用した教育活動の充実

◇・読書活動（地域人材による読み語りや図書室読書環境整備，民話の会の語り）

◇・ふるさと教室の実施（昔の遊び，昔のくらし体験）

◇・栽培活動（米，さつまいも，野菜，草花），稲作感謝の会

- ・生活科の学習活動（探検活動の補助）
- ・社会科の学習活動（校外学習の補助・戦争体験の話）
- ・郷土資料室の整備（昔の道具についてのお話）
- ・家庭科の学習活動（ミシン授業補助，調理実習補助）
- ・宇都宮学の学習支援
- ・学習活動補助ボランティア
- ・夏期学習会の支援
- ・スクールガード活動（登下校時，通学路安全点検，子ども110番の家）

ウ 民間企業・公共施設・行政を活用した教育活動の充実

1年	小動物との触れ合い，宝木荘訪問，	4年	上下水道教室，自転車教室 1/2 成人式，宝木荘訪問，スケート教室 飛び出す美術館
2年	リンゴ狩り，まち探検，西が岡保育園との交流	5年	自動車工場・県庁見学，環境出前講座，ふれあい文化教室，情報モラルに関する出前授業，日産モノづくり，冒険活動教室，クボタ工場見学
3年	益子焼絵付け体験，カルビー工場・博物館・スーパーマーケット見学，珠算教室，リコー教室，盲導犬，宝木分署見学，宇都宮学に関わる施設見学（大谷資料館等）	6年	移動美術館，薬物乱用防止教室，たばこ喫煙防止，夢いっぱい教室，宇都宮空襲に関する話，宇都宮市議会議場見学，情報モラルに関する出前授業

エ 図書室の活用

- ◇・図書室の環境整備（書架の整備・展示の工夫）
- ◇・学習関連図書の整備（調べ学習の充実）
- ◇・児童の読書活動への支援（読み語りの充実・読書記録の工夫・司書教諭による選書支援）
- ◇・児童による読書活動の啓発（図書委員会活動の活性化）
- ◇・「家読」の奨励と啓発

② 特色ある学校づくりについての地域への啓発

ア 広報活動

学校HP，各種便り（「学校便り」「学年便り」「給食便り」「図書館便り」「保健だより」「地域協議会便り」等）

イ 学年・学級懇談会，学校公開日，土曜公開授業日

ウ 諸活動への参加協力の依頼（地域協議会ボランティア募集）

学習支援部会

- ・授業や体験活動に協力できる人材募集や日程調整
- ・体験活動指導者としての協力（昔あそび・ふるさと教室等）
- ・授業で使用する教材作成や校舎内外の環境整備・郷土資料室の整備と活用支援
- ・読み語りや、学校図書館ボランティアとの連携・協力
- ・学習会での児童支援

安全支援部会

- ・地域ぐるみあいさつ運動実施
- ・登下校時の安全確保

宮っ子ステーション部会

- ・放課後の児童に体験活動や交流の場を提供

8 本市の重点施策・事業に関する取組

(1) 「地域とともにある学校づくり」に関する取組

① 基本的考え

魅力ある学校づくり地域協議会を中心に、自治会、育成会、地域コミュニティーセンター等の地域諸団体との連携・協力及び地域人材・ボランティアとの積極的な交流・体験活動を通して、地域への敬愛の心と幅広い社会性を養う。

② 主な取組

ア 地域連携活動の活性化

○ 魅力ある学校づくり地域協議会との連携

- ・学習支援部会：授業ボランティア、体験活動補助、田植え・稲刈り支援、教材作成協力、郷土資料室整備等、ふるさと教室（昔遊び、昔のくらし体験）、夏休み学習会
- ・安全支援部会：地域ぐるみあいさつ運動実施、登下校時の安全確保等
- ・宮っ子ステーション部会：放課後子ども教室開催（校内地域開放室 毎週水・金曜日実施）
（参加児童勧誘、指導員や安全確保の人的配置、各種講師依頼、使用設備の貸与等）

○ 地域教材・人材の活用

- ・生活科「町たんけん」、総合学習「地域発見」の補助
- ・地域老人福祉施設「宝木荘」との交流

イ 学校園の連携交流の活性化

- ・「宮っこチャレンジ」や「町たんけん」での相互受け入れ協力
- ・スポーツ少年団、PTA活動での宝木小、細谷小との連携・協力
- ・西が岡保育園との交流

(2) 「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組

① 基本的考え

学校園運営会議の下に、学力向上、学校生活支援、健康・体力・食育、交流連携の4部会を置き、総力を結集して「心豊かな宝木っ子の育成」を図る。特にすべての教育活動を通して、相手を思いやる心や規範意識、主体的に学ぶ態度の育成及び基本的生活習慣の定着を重視する。

② 主な取組

ア 授業力向上プロジェクトの取組

- ・学校園テーマ「学習習慣の育成・徹底」を受けての取組
- ・校内研究授業の相互参観と研究成果の共有
- ・学校図書館教育の連携・充実
- ・1人1台端末の効果的な活用

イ 「宮っ子心の教育」に関する取組

- ・道徳教育分科会を中心とした授業における具体的な取組の推進
- ・学校生活支援部会の交流体験的活動の充実（あいさつ運動、音楽朝会）
- ・認め励ます教育の推進
- ・「あいさつ大賞」「宮っ子心の教育長賞」の表彰
- ・人権標語の募集と掲示

- ウ 宮・未来キャリア教育に係る取組
 - ・生活科・総合的学習の年計への位置づけと活動の実践
 - ・2分の1成人式（4年）、夢いっぱい教室（6年）の実施

- エ 不登校対策に係る取組
 - ・教育相談分科会を中心とした情報の共有と研究・協議

- オ 体力向上に係る取組
 - ・体力テスト結果に基づく強化種目の設定と具体的指導法の共有
 - ・体育通信・学習カードの共有と活用
 - ・健康推進分科会・食育推進分科会との連携

(3) 「不登校対策」に関する取組

① 基本的考え

児童一人一人が、自らの課題を乗り越え、自己の可能性を伸ばすことができるよう、心身ともに健康で、どのような社会の変化にも柔軟に対応できる児童の育成を目指し、児童の教育的ニーズを把握し多様な児童の状況に応じた指導・支援を行う。学級経営や特別活動の充実を図り、不登校をつくらない教育環境を整備する。全職員の協力体制の下、児童が不登校となったきっかけや不登校の継続理由などの要因を適切に把握し、児童に合った個別の支援計画を策定し、その支援策を学校や家庭、必要に応じた関係機関と情報を共有し、連携して、組織的・計画的に実施していく。

② 主な取組

- ア 未然防止・早期発見・早期対応
 - ・学級経営の充実、児童・保護者との良好な関係の構築
 - ・情報収集（教育相談、学校生活アンケート、Q-U検査、欠席状況調査等）、全教職員による情報の共有、電話連絡、家庭訪問、要因・背景の理解、家庭との連携
- イ 情報の共有と個別の支援計画の作成
 - ・事例報告会及び個別支援会議、打合せ等での情報の共有
 - ・多くの教職員のかかわり、可視化、能視化（意識化）
 - ・個別の指導計画の作成と共通理解
- ウ 関係機関との連携
 - ・市教育センター、市子ども家庭課、児童相談所、医療機関等との連携
 - ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用
 - ・地域学校園における不登校対策連絡会
- エ 本人及び家庭への働きかけ
 - ・家庭訪問を通じた積極的な支援と家庭への適切な働きかけ
 - ・保健室、図書室を活用した適応指導
 - ・積極的な別室登校支援（保健室）
- オ Q-Uを活用した学級経営、特別活動の充実
 - ・Q-Uの分析を生かした学級経営
 - ・ソーシャルスキルやエンカウンターを活用した居がいのある学級づくり
 - ・学校行事や係活動などで児童が活躍できる場の工夫

(4) GIGAスクール構想

① 基本的考え

GIGAスクール構想の実現を目指し、1人1台端末を文具の一つとして、授業はもとより日常的に活用できるよう、校内研修等を充実させ、着実に取り組みを進める。また、「宇都宮市小学校プログラミング教育年間指導計画」に基づき、プログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付ける学習活動を計画的に実施する。より良い情報の使い手となるための教育を体系的・継続的に実施していく。

② 主な取組

- 1人1台端末の積極的活用
 - ・各教科の特性や児童の発達段階に応じた1人1台端末の効果的活用の推進
 - ・協働的な学びを実現する端末の活用の推進
 - ・授業はもとより朝の学習、家庭学習等において、AI型個別学習ドリルを効果的に活用

し、学習内容の確実な定着を図る

○ 校内研修の推進

- ・ 情報教育主任を中心とし、I C T支援員等を効果的に活用した校内研修の推進
- ・ 研究主任を中心とし、1人1台端末を効果的に活用した授業研究の推進

○ 情報モラル教育の推進

- ・ S N Sやネットトラブル、スマホ依存等の未然防止に向け、専門家による出前講座等を活用した情報モラル教育の推進

(5) 宇都宮学

① 基本的考え

グローバル社会に主体的に向き合い、よりよい社会を創る担い手となるとともに、異なる文化をもつ人々とともにたくましく未来を生き抜く宮っ子を育むため、地域のひとやものを活用し児童が郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて理解し、郷土への愛情と誇りをもてるようにする。

② 主な取組

○ 社会科と宇都宮学を関連付けた魅力ある授業の展開

- ・ 第3・4学年社会科副読本「宇都宮学」コラムの活用
- ・ 宇都宮学に関連した施設や場所などを見学し、体験的な学習の積極的な導入

○ 総合的な学習の時間における探求的な学習の展開

- ・ 第5・6学年小学校版「宇都宮学」副読本の効果的な活用
- ・ 各教科・領域と関連させた指導